



読み聞かせありがとうございます

脱コロナとなり、帯西でも読み聞かせボランティア「ぐりとぐら」による活動が復活しています。毎週金曜日に、いくつかの学年を回ってもらっています。今日は、6年生とふれあい学級で読み聞かせが行われていました。子供たちは、絵本の世界にどっぷりとはまり、6年生の子供たちも微笑んだり、声を出したりして反応を返していました。



「ぐりとぐら」代表の城下さんは、「読み聞かせをする私たちも、学校に来る前は緊張するんですが、読み聞かせをすると、子供たちにエネルギーをもらって、素敵な時間になっています。」とおっしゃっていました。読み聞かせはこれからも帯西の貴重な時間となっていくことでしょう。「ぐりとぐら」もこれからメンバーを募集されるようです。興味がある方は、参加してみませんか？

また、図書委員会による読み聞かせも、昼休みに学年ごとに行われています。昨日22日(木)は、低学年への読み聞かせが行われていました。図書委員長の松本さんは、「低学年の子供たちが本に興味をもって来て本を好きになってくれたら嬉しいです。」と述べています。読み聞かせによって、子供たちの心が豊かに育って欲しいと思います。

弦楽四重奏生演奏

今日は、5年生の音楽の鑑賞の時間に、演奏家4人を招いて、第1・2バイオリン、ビオラ、チェロの弦楽四重奏の演奏を聴くことができました。養護教諭の松本先生は、自ら第一バイオリンの演奏をし、演奏家としての登場に子供たちも興味津々でした。最初の曲は「アイネ クライネ ナハトムジーク」(モーツァルト作曲)でした。子供たちは、生演奏の迫力に惹きこまれ、旋律の重なりや反復を聴き取り、目の前の楽器の演奏の仕方にも注目しながら、楽器の生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取っていました。生演奏を聴いて、子供たちは「教科書では全体しか聞こえなかったけど、一つ一つの旋律を聞いて、一つ一つの音が欠かせないことがわかりました。」「チェロは低い音で、柱みみたいな役割になっているところがすごかったです。」「動画と生で見るのが全然違っていました。」と感想を述べました。

この他にも2曲の演奏があり、子供たちは、演奏に魅了されていました。感想交流では、「帯西ブルーの心が伸びました。一人一人の旋律が合わさって一つの音楽なんだと思ったからです。」「帯西レッドの心が伸びました。バイオリンやチェロを指で演奏できることや、短く切って演奏する方法を知ることができたからです。」と感想を述べました。子供たちは、曲や演奏のよさなどを見いだしながら、音楽を味わって聴く喜びを感じ取ることができました。

